

愛知県環境審議会総合政策部会 会議録

1 日時

平成19年2月9日(金)午前10時~正午

2 場所

愛知県自治センター5階研修室

3 出席者

委員7名、専門委員4名、説明のために出席した者(環境部職員)19名

4 議事の概要

環境基本計画の変更について

(1) 新しい環境基本計画の骨子案について

・事務局

資料1(新しい環境基本計画の骨子案)及び資料2(環境基本計画と他の計画との関係について)の説明

・質疑等

(加藤雅信委員)

公害苦情件数の経年変化で、大気汚染が途中で急増していてその後横ばいになっているが、これはなぜか。

事務局

工場からのばい煙などの公害というよりも、野焼きなど廃棄物に関する苦情が増えている。

(加藤雅信委員)

そういった行為に対する関心が高まったということか。

事務局

そのような状況ではあった。

(吉田委員)

資料1付属資料4の政策展開の内容を見ると、農地などの人工的な環境の保全、都市における土壌汚染の問題が触れられていないが、どこに含まれると見ればよいか。

事務局

土壌汚染の問題は、施策の安全・安心の確保のところでは展開することを考え

ている。農地については、施策 の水循環や施策 の生物多様性などになる。

(吉田委員)

水循環には、藻場、干潟の造成はあるが、農地保全はないが。

事務局

付属資料3 施策 の森林・農地・漁場のところで出てくる。

(加藤久和部会長)

資料1の骨子案の全体構成についてはどうか。

(北田委員)

温室効果ガス削減や低炭素社会が避けて通れない問題だとすると、そのことについて第3章で触れたほうがよいのではないか。施策では循環型社会の中に入ってくることはわかるが、どういう社会を追求していくかがわからない。新エネルギーも大事だと思うが近々の達成目標が表れたほうがよい。企業についてはESCO事業が書いてあるが、民生・運輸部門がどうするかが見えない。

(加藤雅信委員)

温暖化問題は、「地球的視野で環境を考える」ことに含まれていると考えられ、施策 にも掲げられている。第3章ではあまり具体的なことは書いていない。

(加藤久和部会長)

温暖化防止が循環型社会に含まれるということは良いが、計画にメッセージ性を持たせるために目標の中に具体的に書いたほうがよいということか。

(井上専門委員)

循環は広すぎると思う。愛知らしさを考えたとき、車社会にどう向き合っていくかというのが課題であるが、具体的な施策でどう展開していくかは、民生的な部門が難しい。

(芹沢委員)

循環社会のところで、「物質が循環的に利用され、エネルギーの消費が削減される」とはっきり書いてもいいのではないか。

(井上専門委員)

循環というと、専門家はいいが、県民はどちらかというと廃プラスチックのリサイクルぐらいにしか思わない。

(芹沢委員)

施策 で新エネルギーの展開とあるが、消費の問題が一番と考えるので、省エネの推進も掲げるべきだと思う。

(篠田委員)

「物質が循環的に利用される」のところでリサイクルやリユースが入るので、「環境負荷の小さな社会と温暖化防止に努める」と書けば大体収まるのではない

か。

(加藤久和部会長)

四つのキーワードはこれでいいが、その説明の中に、低炭素・脱炭素社会を築くのに愛知県がリーダーシップを発揮するとか、一般には受け入れられやすい温暖化防止対策などを明確にしていくということだろうと思う。いずれにしても具体的な内容のある施策が伴う必要があるのでそこまで議論してから考えることとしたい。

(度会専門委員)

第2章の「現状の環境基本計画の成果と今後の課題」のところ、その辺の問題もあぶり出してもらって、第3章につなげると読みやすい。

事務局

第2章では、分野ごとにこれまでの環境基本計画の具体的な指標の達成状況を掲げた上で、例えば地球温暖化対策の実績を成果又は課題として記述するようにしたい。

(北田委員)

計画の期間である2015年度と、目標の2025年の関係は。

事務局

第3章の4つの目標は2025年度を展望しており、第4章の個別の施策を2015年度までに進めていくということである。

(加藤久和部会長)

生物多様性の国際会議がおそらく名古屋で開催されるだろうが、単に国際協力というのではなくて、国内施策として是非計画の中でも将来の展望を踏まえた政策の方向を示したい。

(芹沢委員)

施策の生物多様性では二次的な自然の問題が一番重要になってくるが、これは施策のまちづくりと密接に関連してくる。ここに都市は書いてあるが、農村、山村の立場を忘れてはいけない。都市の機能化は農村、山村の環境づくりとつながっているので、環境に配慮した機能的なまちづくりと良好な農山村環境の保全をセットで考えるべきである。

(加藤雅信委員)

農山村の主たるニーズは環境問題なのか、活性化なのかよくわからないが、居住環境の問題も大きい気がするが。

(芹沢委員)

人間がそこで暮らしていける良好な農地が維持できないというのが根本的な問題だと思う。

(吉田委員)

過疎化の問題もあると思うが、農山村の環境が保全されなければ都市の水環境や生物多様性の保全も成り立たない面がある。

(篠田委員)

環境省の生物多様性国家戦略によると、絶滅危惧種の6割が中間山間地、里山にいたので、そこを担保しないと全体としての生物多様性が確保できない。その点が見える形にしたい。「地域づくり」とすると全体を含むと言えなくもないが。また、自然再生法などでは、保全だけでなく修復ということが言われている。

(加藤久和部会長)

機能的という言葉が気になるが。

(芹沢委員)

機能的でないものを盛り込むことはないので、その言葉に問題はないと思うが、「地域づくり」という言葉よりも農山村がはっきり見える表現にしたい。

(北田委員)

農地の土地利用の役割が見えるよう、その点が認識できるようにしておくべきであろう。

(加藤雅信委員)

農山村というと、まちづくりからはずれる気がするので、自然環境に含めて考えられないか。生物多様性以外の自然環境の保全もあるのではないか。

事務局

施策 に掲げたあいち水循環再生基本構想の中で、森林づくり、農地の保全を適切に行うことが最終的に健全な水循環につながることを盛り込んでいるので、農山村の整備・維持はここで記述したいと考えている。

(芹沢委員)

施策 を「水循環の再生と農地山林の保全」とするなど、そこに含まれていることを明確にしたほうがよい。

(加藤久和部会長)

愛知は農業県でもあるので、そのようなメッセージ性を持たせることは考え方として良いと思うが、農地の保全という表現がどうかとは思う。

(加藤雅信委員)

「まちづくり」だと人口密集地だけという感じがするので、「県土の保全」として農地なども含めることも考えられる。

(芹沢委員)

施策 の内容のエコマネーやグリーン購入は個人の消費活動という面も持つため、企業関係の経済活動と並んで施策 に位置付けるべきではないか。

(加藤久和部会長)

資料1 付属資料2 について、安心・安全の確保のところではアスベスト、PCBといったここ数年にわかに話題になったものが掲げられているが、本来の環境施策では伝統的に重大な基本的な施策であると思う。

(篠田委員)

一般に安心・安全というと、食の安全とか水道水の安全と思う。

(中村委員)

環境に関する安心・安全というと、やはりこれらが基本的な事項だと考える。

(芹沢委員)

環境ホルモンの問題は深刻であるが、直ちに被害が出ないのであまり重大に取り上げられない。

(北田委員)

県の環境ホルモンについて検討する会議に参加しているが、すごくひどいという状況でもない。

(加藤久和部会長)

有害化学物質に含まれているということではよい。

(芹沢委員)

それでもよい。

(加藤久和部会長)

先ほどの農地保全の問題をどうするかという点を議論したい。

(加藤雅信委員)

資料1の第4章2の施策のタイトルを「自然環境、農山村をも配慮した健全な水循環の再生」とすれば、組み立ての大きな修正は生じないのではないかと。

(清水専門委員)

付属資料3 施策の生物多様性の保全の中の生態系ネットワークのところでは里地・里山が出てくるので、ここで農地の問題を書くべきである。自然環境保全地域で担保されない農地の問題もあるかもしれない。したがって、水循環と、生物多様性と、施策に農村集落の記載を加えておけばよいのではないかと。また、生物多様性の保全について、自然の修復が全国各地で行われており、水循環の再生という表現もあることから、修復という言葉は入れておいたほうがよいのではないかと。

(芹沢委員)

施策がエネルギーの循環、モノの循環、モノである水の循環であるのでこの3つを並べて、次に、まち、村、人が住んでいない自然という順に整理してもらおうとよいと思う。

(篠田委員)

農山村という表現ではなく、環境省も使っている里地・里山という表現にすれば、里地の中に農地とそれを取りまく環境もすべて含まれる。

(加藤久和部会長)

都市と並べると里地・里山や中間山間地では足りない。

事務局

施策の並べ方、里地・里山、農山村の問題、温暖化対策について、意見を踏まえて整理する。

(加藤雅信委員)

芹沢委員から指摘のあったエネルギー循環、モノ循環、水循環の順番に組み替えて、まちづくり、里地・里山の保全、次に人の住まない自然環境を入れて「自然環境と生物多様性の保全」として並べるのがよいのではないか。

(加藤久和部会長)

循環の位置を入れ替えて、次に「自然環境と生物多様性の保全」、次に「まちづくりと里地・里山の再生」ということになるか。

(井上専門委員)

整理としてはその順番が分かりやすいが、県民に対するメッセージとしては、まちづくりから環境を見ていくということが一番になると思う。

(芹沢委員)

順番は自然環境よりもまちづくりが先であろう。

(加藤雅信委員)

まちづくり、里地・里山、自然環境、次に循環という順番に賛成だが、第3章の循環社会の順番も変える必要が出てくるか。

事務局

循環社会は幅広い概念であるので、組み替える必要まではないと考える。

(北田委員)

都市の施策はコンパクトシティということだと思うが、農山村についてはその役割、中身をしっかり検討する必要がある。

(加藤雅信委員)

メッセージ性は大事だが、基本計画を作って現実の施策が伴わなくてはならない。トップで「環境に配慮した機能的なまちづくり」と言ったときに、その具体的施策が重要な意味を持つ。まちづくりについて環境面から積極的な施策を打ち出していくという姿勢がある程度ないとトップに入れても様にならない。

(芹沢委員)

伝統的な環境部の守備範囲からすると、一番大きな問題は温暖化の問題である

のでトップに挙げたい。

事務局

県の環境行政の姿勢としては、これまでの規制中心の環境行政ではなく地域づくりに入っていきたいと思いは強く持っている。ただ環境面からの県のデザインには難しい問題もある。また、中心市街地についてまちづくり三法が改正されて環境に配慮したまちづくりも可能になってきているが、本来的な趣旨は大規模店舗の流出防止ということもある。本当に環境面でコンパクトシティが可能か検討の余地があり、これから打ち出していく施策と連動して議論する必要がある。

(北田委員)

資料1付属資料3に掲げられている主な事業例については、評価あるいは現段階での見通しがないと自信を持って進められないのではないかと。

事務局

県の施策としては率先導入など色々なものがあるので、評価の仕方が難しいものもある。

(芹沢委員)

施策の主な事業例には省エネを入れてほしい。施策とに関しては、人の問題と金の問題ということだと思う。エコマネー、グリーン購入は人の問題とも言えるが、本格的に実施していくためには金の問題として捉えないといけないので、施策に入れるべきだと思う。

事務局

先ほどの自然環境と生物多様性の関係、里地・里山の問題であるが、「多様な自然環境と生物多様性の保全」というような表題として、この中で里地・里山を、ふれあいの場も含めて、まとめていきたいと考えているが。

(加藤雅信委員)

自然環境は人のいない環境と捉えられがちなので、人がいる里地・里山が欠落しないように配慮してほしい。

(芹沢委員)

里地・里山について、生物多様性の問題だけでなく人間の問題も取り上げるとなると、まちづくりの方向から捉えたいが、まとめ方の最終的な判断は任せる。

(井上専門委員)

施策の資源循環型社会の形成について、産業界へのメッセージとして、規模が零細な静脈産業は環境行政として支援していかないと育っていかないので、この点を配慮してほしい。

(中村委員)

廃棄物部会でまとめる廃棄物処理計画では、資源循環ビジネスの推進を県独自

の施策で行う。

(井上専門委員)

産業労働部の分野に止まらず、環境部も最終処分場を作るのと同様な考え方で既存の企業を支援する施策に取り組んでほしい。

事務局

施策 のゼロエミッション・コミュニティ構想の中で指摘のあったような内容が盛り込めるのではないかと考えている。

(原田専門委員)

なるべく具体例も入れ、わかりやすく記述してほしい。

(2) 今後の予定について

・事務局

資料3(今後の予定(案))の説明

・環境審議会において加藤久和部会長から部会での審議の経過報告をすることが了承された。

以 上